

かけはし

第 11 号

平成29年 3月 1日

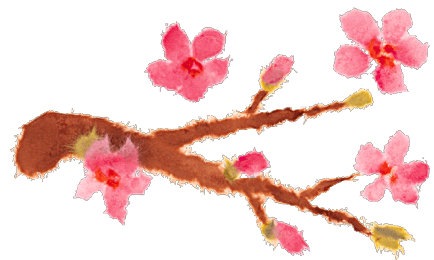
ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

がんばったよ、成長したよ

校長 川崎 直人

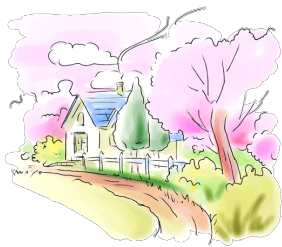
いよいよ1年の締めくくりの時期を迎えました。3月17日には、3名の6年生に卒業証書が手渡されます。どんな気持ちで受け取るのでしょうか。

卒業の時期といえば桜が連想されます。北海道では5月ですが、春を告げる国花です。桜の木は、その花が散ったとき、すでに翌年の花芽はできているのだそうです。その花芽はとも小さくて堅いものです。そして、暑い夏を越し、秋を経て、冬を経験することによって、春にまた花を咲かせます。花芽は氷点下の厳しい寒さを経験しなければ開花のためのホルモンを作り出すことができません。厳しさを経験し乗り越えたからこそ、そのホルモンを作り出し、春に見事な花を咲かせてくれるのだそうです。本校の子どもたちと重なるものを感じます。与えられた環境の中で努力して、成長し開花させていくのは、ほかでもない自分自身であるということです。



最高学年の6年生は、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、「学校の顔」として期待に応える活躍をしてくれました。中学校では大きな花を咲かせてほしいと思います。また今年度入学した1年生も学校生活に慣れ、あどけなさの中にも自信溢れる言動が数多く見られるようになりました。2年生から5年生も学年の発達にふさわしい成長ぶりであります。それぞれの教室や校内に掲示されている学習活動の記録や学習ファイル等を4月から見たり読み返したりしてみると、子どもたちが頑張った場面が鮮やかによみがえり、成長が実感できます。

その場その場では、喜びや悔しさなど心動かすことの連続ですが、いつしか日常性の中で忘れていくこととなります。3月は、卒業や進級を前に、「やれたこと」「できるようになったこと」を振り返り、努力や成長を確認したいものです。



大切なことは、様々な視点から、お子さんの成長を確認し、具体的な言葉で伝えてあげることです。学校だけでなく、親や地域の大人から、自らの成長の事実を伝えられた子どもの心の中は、計り知れない喜びと充実感に包まれます。子どもは、認められ、たくましく成長して行きます。